

キャン班

佐藤浩介・河野亮・石川祐太郎

上水智瑛・森下文望

1. 準備に関する感想と反省

私たちは、プレゼンというものが今回の合同ゼミで初めてということもあり、プレゼンを行うにあたってまず何をすれば良いのかも分からないまま始まりました。後期に入り、まずは企業の概況を調べ資料やデータを調べるだけで悪戦苦闘しながらも、何とか情報を集めプレゼンに向けての準備を始めることができました。情報を集め、本格的にプレゼンの原稿を作ろうしてもなかなかうまくいかず、期日までに終わるのかという不安もありましたが、学校以外の場所でも集まりメンバー全員で協力してなんとか形にして終える事ができました。

反省点としては、曖昧な情報を使いもう少し具体的なものにできたのではないかということ、リーダーの私が原稿を作るにあたって計画的にできなかったことなどがありました。この反省点も次回に活かしたいと思います。

2. 報告内容とそれに対する質疑の概要

当日の合同ゼミで私たちはキヤノン、相手チームはソニーでデジタルカメラについて報告したわけですが、私たちは主にキヤノンの現在の国内・世界のシェア、今後の経営戦略を重点的に調べ報告しました。キヤノンは国内・世界シェアとも1位を獲得しており、今現在の状況に満足せず、今後めざましい経済発展が予想される新興国という新たな市場にも事業を拡大しており、他の追随を許さないというほどのものでした。

相手チームに対する質疑の相談の時間では、相手の報告の抽象的な部分をメンバー全員で探し、的確に指摘することができたと思います。しかし、相手の質疑に関しては少し考え込んでしまう場面や、メンバー全員で答えることができなかったこともあり、もう少し相手の立場になってどのような反論をしてくるのか、質疑に対する受け応えを考えるべきだったと感じました。

3. 合同ゼミに対する感想と反省

初めてのプレゼントあって、とまどいはあったものの全員で協力し無事終えることができましたが、やはり余裕を持って終わらせることが大切だと痛感しました。国立図書館に行ったことや、期日が近づいても終わらなくて友人の家に4日間も転がり込んだこともありましたが、コミュニケーションという面や、この合同ゼミを通してまだまだ修正点はあると思いますが、ゼロから始まり自分達で作ったものを、大勢の目の前で発表できたことは新鮮で、とても良い経験になったと思います。

(文責 佐藤浩介)